

リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

- | | |
|------------------|------|
| 1. 関連計画、背景・課題 | ・・・1 |
| 2. 目指すリニア駅周辺の姿 | ・・・1 |
| 3. リニア駅周辺整備の方針 | ・・・2 |
| 4. 方針ごとの取り組み | ・・・3 |
| 5. リニア駅周辺整備のイメージ | ・・・8 |

リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

1. 関連計画、背景・課題

【関連計画等】

- 長野県リニア活用基本構想（長野県 平成 26 年 3 月）

【長野県のポテンシャル】

- ・大地から与えられた恵み
 - (1)美しく豊かな自然環境、(2)大都市圏への近さ・交通の結節点
- ・先人が築いてきた努力の賜物
 - (1)全国トップレベルの健康長寿、(2)教育を大切にす風土と県民性、
 - (3)伝統・文化を受け継ぐ地域、(4)企業家精神を育む土壌

・際立つ地域の個性

「大地から与えられた恵み」と「先人が築いてきた努力の賜」が重なり合った、様々な表情を持つ多様な地域

- ・「伊那谷交流圏構想」「リニア3駅活用交流圏構想」「本州中央部広域交流圏構想」の3つの交流圏でリニアインパクトを享受

- ・伊那谷交流圏構想では、「魅力ある駅空間の創造」と「良好なアクセス確保」に着目

- ・めざす駅の姿：『長野県らしさ・伊那谷らしさが感じられ、多様な交流の要となるリニア駅』～利便性と快適性を兼ね備えた広域交通・地域振興の拠点～

- リニア将来ビジョン（南信州広域連合 平成 22 年 11 月）

- ・飯田下伊那地域の対外的な地域の将来像として「小さな世界都市」「多機能高付加価値都市圏」を掲げる

- リニア推進ロードマップ（飯田市 平成 25 年 4 月）

- ・「リニア将来ビジョン」が示す地域像の実現に向け、「リニア本体工事関連」「社会基盤整備関連」「戦略的地域づくり」という3つの分野を検討
- ・地域づくり（個性を活かした地域づくりを進める）については、「環境モデル都市」「地域ブランドの構築」と地域の良さを多様な主体で「守り備える」ことを位置づけ

【地元による計画等】

- ・住んでみたい、暮らしてみたいまち
- ・生活環境や自然と調和した秩序ある開発
- ・街並み形成、山並みの眺望、景観
- ・長野県の玄関口にふさわしいリニア駅

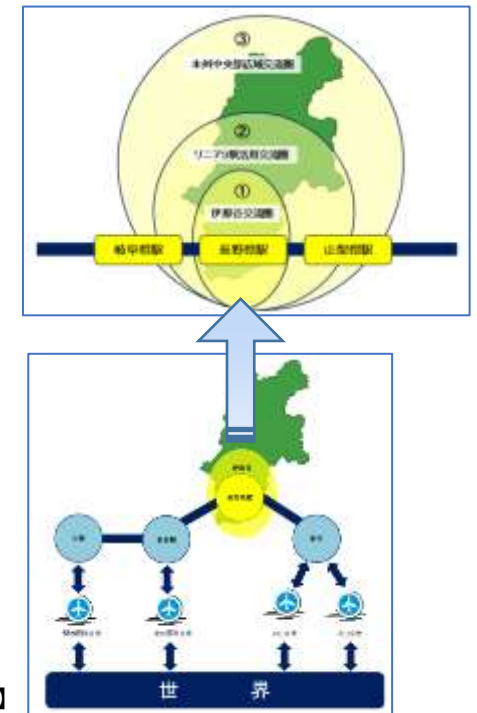
- ・基本構想検討会議で出された意見
- ・交通関係事業者へのヒアリング
- ・都市圏企業へのヒアリング
- ・他都市（新幹線駅設置都市）へのヒアリング
- ・既存新幹線駅の現況調査
- ・関係会議等から寄せられた意見
- ・地元から寄せられた意見

2. 目指すリニア駅周辺の姿

ローカル グローバル 信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、 ゲートウェイ 世界へ発信する玄関口

信州や伊那谷の持つ豊かな個性（豊富な自然や美しい景観、文化、伝統など）を大切にし、さらに高めることで世界を惹きつける魅力を育み、リニアを通じて世界へ発信していきます。

リニア駅を含めた駅周辺地域は、このことを実現していくための空間であるということを念頭におき、リニア駅周辺整備に当たっては、県内の各地域をつなぐ広域交通拠点として“高度なトランジットハブ”の実現を目指すとともに、長野県の新たな南の玄関口として信州らしさ・伊那谷らしさが感じられ、多様な交流の要となるリニア駅を目指します。



【イメージ図：『長野県リニア活用基本構想』から】

〈リニアを活かした発展の考え方〉

- ⑤ ④により更に駅利用者が増加するといったスパイラルアップにより、持続的な発展を進める。
- ④ 各拠点でリニア開通を契機とした観光機能強化、交流機能強化、居住機能強化などを行い、訪問機会・欲求の向上、交流人口の拡大を図る。
- ③ 訪れた人々を、リニア駅から各地域の中心拠点、観光拠点、産業拠点へスムーズに誘導するための強力なネットワークを整備する。
- ② 山里の風景やあかり区間の風景などの“見たい・訪れたい風景”を活かしつつ、信州・伊那谷の魅力や観光資源の発信・強化を行うことで、地域の知名度向上とリニア駅の利用者増進を図る。
- ① リニア駅により誕生する新たな玄関口から、コンパクトで効率的な駅周辺整備を行う。

持続的発展へ



リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

3. リニア駅周辺整備の方針

《背景、課題、検討会議等での意見》

・飯田だけでなく長野県や伊那谷、南信州全体の駅である事を考慮する。
 ・中央高速道路に速やかに乗り換えられる必要がある。
 ・JR 飯田線とリニアの結節性を高め、乗換もスムーズにする。
 ・主要幹線道路の整備を進めアクセス機能の強化を図る。
 ⇒高速道路や周辺道路整備、JR 飯田線とリニア駅との結節による利便性の向上などにより、円滑なリニアへの乗換を実現する。

・リニア駅を「高度なトランジットハブ」として機能させる。
 （複数のアクセス手段を有効に活用できる仕組み）
 ・周辺環境に配慮した適正な規模での整備を行う。
 ・リニアによる来訪者だけでなく、地元の人たちも利用できるような駅周辺にする。

・訪れた人に信州を感じてもらえるような駅周辺とする。
 ・地域の特色である、都会にない田舎の風景を大切にする（自然を活かした環境整備を考える）。
 ・利便性だけでなく、駅を降りたときに見える景観にも配慮する。
 ・地域らしさを考えるに当たっては、都市圏や他県駅との差別化を図っていくこと。

・現在ある観光資源を棚卸しするとともに、施設整備を含めた新たな観光資源の創出を検討するなど、将来に向けての観光のあり方を考える。
 ・ここにしかないというものをいかに創出していかを考えるとともに、それらをどのようにアピールし、情報発信していくかという視点が必要になる。

《駅周辺整備の方針》

《基本方針1》 駅勢圏の拡大に向けた交通アクセス及びネットワークの強化を進める

広く長野県全域へリニア効果を波及するため、リニア駅から高速道路、鉄道、公共交通を活用し各地域の拠点等への強力なネットワークを形成する。

《基本方針2》 高度なトランジットハブを形成するとともに、地域の利便性を高める

S I C整備による高速道路とリニア駅との結節、アクセス道路の整備、飯田線や高速バス・タクシーなどへの円滑（シームレス）な乗換などを実現することにより、複数のアクセス手段を有効に活用できる効率的でコンパクトな施設整備を行う。

《基本方針3》 信州・伊那谷らしさの感じられる風景づくりを進める

周辺のまちづくりも一体としてとらえ、開発をコントロールし、原風景を備えた風景づくりに取り組む。

《基本方針4》 「伊那谷ブランド」を強化し、発信する

信州、伊那谷の魅力・特徴を紹介する場とするため、様々な立場の人々が「地域ぐるみ」で協力して取り組む。

《取組み》 取組みを貫く視点

	“環境”	“交流”
● 中央自動車道との連携を強化する		
● 飯田線の乗換新駅設置も含め、飯田線への乗換利便性を強化する		
● 各地域の拠点等へのアクセス機能向上を進める		
● リニア駅からの乗換機能を高める		
● 来訪者の移動を支援する多様な交通手段を確保する		
● リニア駅の利便性を高めるパーク&ライド駐車場を適切に確保・配置する		
● 地域のコミュニケーションの場ともなる、信州の魅力発信施設を計画する		
● 駅整備と同時・一体的に地域の住みやすさの向上と風景づくりを進める		
● 効率的でコンパクトな交通広場と駅利便施設を計画する		
● 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間を形成する		
● 山並みや里山の風景を見て感じられる「見晴らし広場」を形成する		
● あかり区間を走行するリニア自体を眺望できる「眺望の丘」を形成する		
● 周辺のまちづくりと連携し、伊那谷らしさを感じられる風景を形成する		
● 環境に配慮した駅周辺整備とまちづくりを進める		
● 6次産業、先端ビジネスの発掘・誘致・強化を進める		
● 来訪者を惹きつける観光資源の発掘・強化を進める		
● 「伊那谷ブランド」を発信するシティプロモーションを進める		
● 多様な力を活かし検討を進める		
● リニア駅整備と連携・補完する都市の魅力づくりを進める		

リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

4. 方針ごとの取り組み 《基本方針1》 駅勢圏の拡大に向けた交通アクセス及びネットワークの強化を進める

中央自動車道との連携を強化する

- リニア駅と中央自動車道との連携を強化するため、座光寺 PA への SIC（スマート・インターチェンジ）の設置と、座光寺 SIC（仮称）とリニア駅を繋ぐ道路を新設し、中央自動車道とリニア駅のアクセス性（速達性・定時性・安全性）を高めます。

〈SIC（スマート・インターチェンジ）のイメージ〉



国土交通省 HP より

〈座光寺 SIC（仮称）とリニア駅を繋ぐ道路〉
検討中のルート図

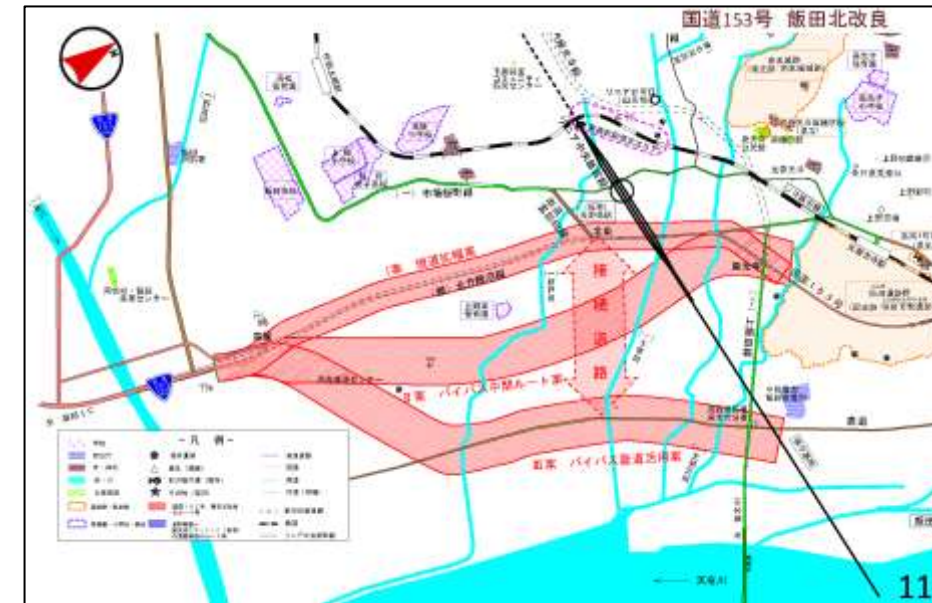


長野県検討資料より

各地域の拠点等へのアクセス機能向上を進める

- 国道 153 号については、伊那谷を南北に結ぶ主要道路として、関係機関が連携し道路機能の向上を図り、渋滞緩和や安全性向上とともにリニア駅へのアクセス性を強化します。
- リニア駅周辺の道路整備を行うことで交通渋滞の緩和を図ります。
- 三遠南信自動車道へのアクセス機能向上を図るとともに、主要幹線道路や主要観光拠点へのアクセスを担う道路の機能向上を検討します。

〈国道 153 号の機能向上の検討〉

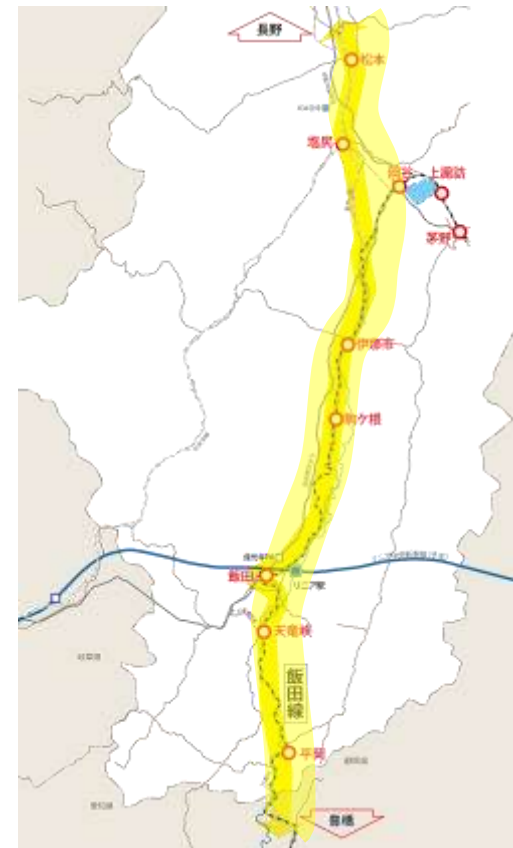
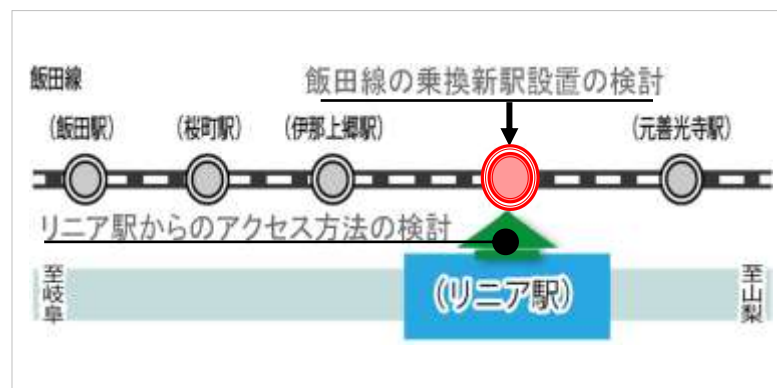


長野県検討資料より

飯田線の乗換新駅設置も含め、飯田線への乗換利便性を強化する

- 長野県内へのリニア駅設置の波及効果を高めるため、長野県を南北に縦断する飯田線とリニア駅は、短時間で便利に乗換できることが必要です。
- リニア駅との結節性を高めるため、伊那上郷駅と元善光寺駅の間、飯田線の乗換新駅設置を検討します。
- 加えて、リニア駅から飯田線乗換新駅へのアクセスは、適切な移動手段を検討して、乗換利便性を高めます。

〈飯田線の乗換新駅設置及びアクセスルートのイメージ〉



リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

《基本方針2》高度なトランジットハブを形成するとともに、地域の利便性を高める

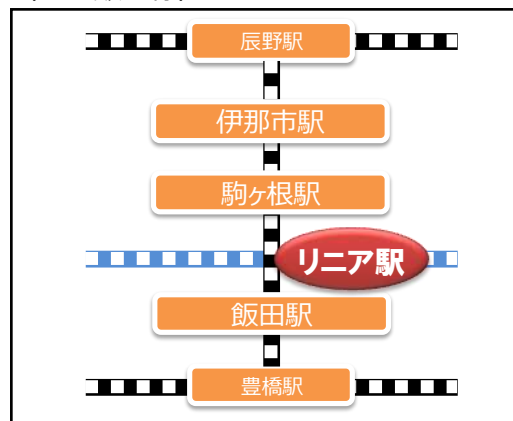
リニア駅からの乗換機能を高める

〈考え方〉

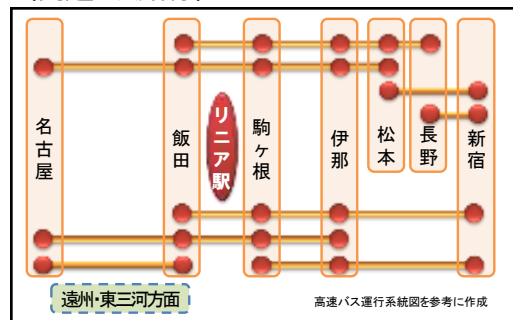
- 人口減少、高齢化、少子化の時代に重要性を増す公共交通による移動手段は、長距離、中距離、地域内移動のそれぞれの視点から、そのあり方を検討します。
- 公共交通のあり方を検討する上では、リニア駅と飯田線との乗換の利便性の向上はもとより、国道や三遠南信自動車道、さらには中央道等の主要道路とのアクセス性の向上も視野に含め、広域的に検討を進めます。
- 高速バス、市内路線バス、観光バス、駅などの利用者はもとより周辺居住者の利便性も高めるバス・タクシーの交通結節点（トランジットハブ）を検討します。



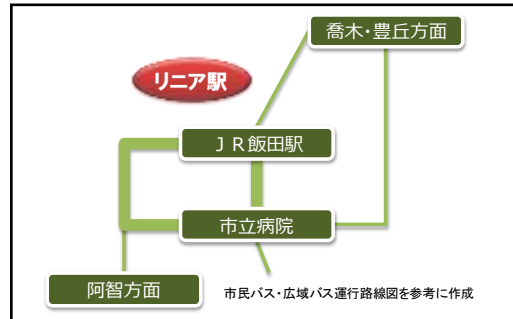
〈JR飯田線〉



〈高速バス路線〉



〈地域内バス路線〉



〈具体化へ向けた検討〉

- 特に周辺に存在する観光拠点からの送迎バスの発着を想定し、コンパクトながらも必要十分な乗降スペースや待機スペースを確保します。
- 個人旅行やビジネスなどにおいて重要な役割を担うタクシーとの乗り換え機能についても、適切な乗降スペースや待機スペースを確保します。
- 今後、リニア運行計画の具体化や、交通事業者との議論を踏まえて、適切な施設規模を定めていきます。

来訪者の移動を支援する多様な交通手段を確保する

- オープントップバス、周遊バスなど移動に楽しみを与える多様な交通手段の確保について検討します。
- 今後、さらに重要視されるであろう環境への配慮の観点から、レンタサイクル、ペロタクシーなどの環境にやさしい交通手段や、先端産業集積を活かした次世代低炭素モビリティの導入を検討します。

〈オープントップバス〉



〈レンタサイクル〉



〈次世代低炭素モビリティ〉

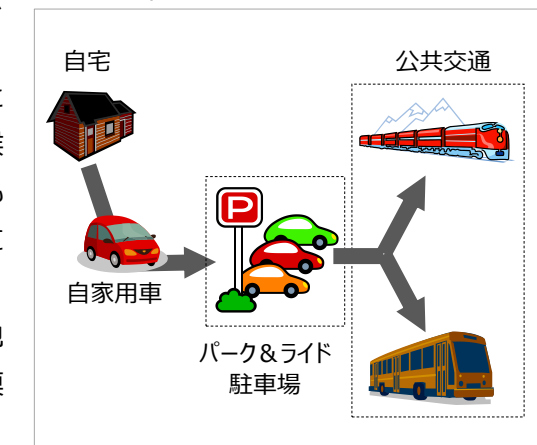


出所：国土交通省

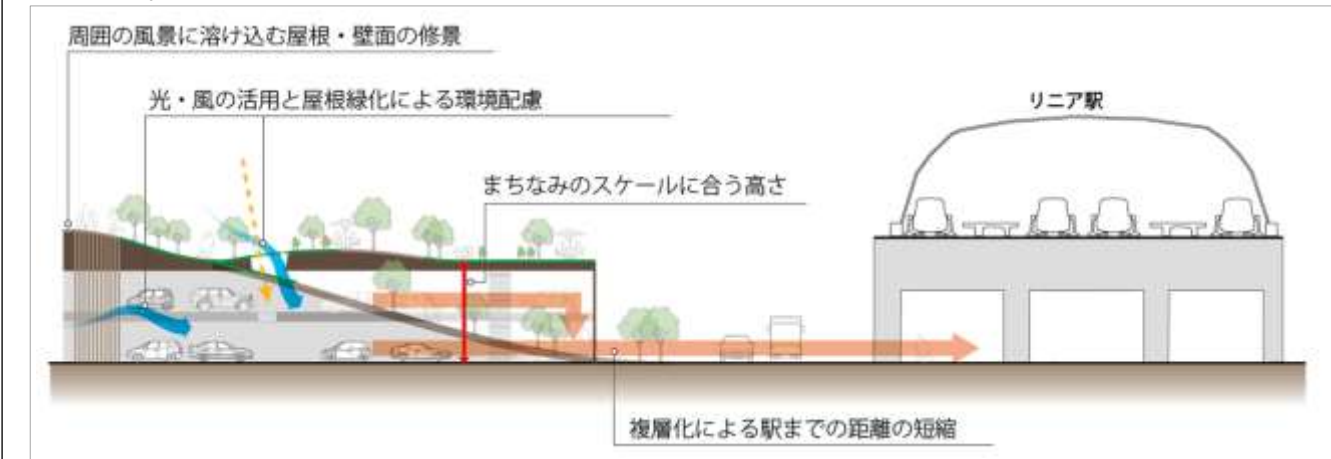
リニア駅の利便性を高めるパーク＆ライド駐車場を適切に確保・配置する

- 自家用車で駅にアクセスし、駅の駐車場に駐車したのち、リニアやバス等公共交通機関に乗り換える利用者の利便性を高めるため、パーク＆ライド駐車場（P&R 駐車場）を確保します。
- 駐車場は周囲の街並みとの調和を重視し、リニア駅よりも低い高さとし、また、駐車場面積の縮小、駅へのアクセス性向上、悪天候時の利便性向上を図ります。屋根、壁面は緑化・修景を行うとともに、光・風を積極的に活用することで周囲の風景になじむ、環境に調和した駐車場とします。
- 駐車場は、リニア駅利用者数、駅周辺土地利用、周辺宅地・農地の無秩序な転用に対する懸念などを総合的に勘案し、適切な規模を確保します。

〈P&R 駐車場のイメージ〉



〈P&R 駐車場の整備イメージ〉



- パーク＆ライド駐車場については、リニア利用者の利便性向上、新たな玄関口形成に伴う需要の想定などをもとに、今回の構想では、現時点で妥当な規模と目される750台に設定します。
- 今後、リニア運行計画の具体化や、関係者との議論を踏まえて、適切な整備台数を定めていきます。

地域のコミュニケーションの場となる、信州の魅力発信施設を計画する

■ 来訪者に信州や伊那谷の食、工芸、文化などをアピールするとともに、地域住民の日常的な消費活動や交流活動を支え、新たな雇用機会を創出する魅力発信施設を計画します。

Ex) 魅力発信施設が備える機能

- ・休憩
- ・観光・情報提供
- ・広場、イベントスペース等の交流施設
- ・物産・農林水産直売所 など



例：休憩施設（遠山観光協会 HP）



例：観光案内所（長野県 HP）



例：広場（イベント）（長野県 HP）



例：物産直売所（長野県 HP）

- 魅力発信施設は、適切な規模と、来訪者や地域住民が利用しやすい配置を検討し、施設の分棟化や低層化により風景になじむ施設とします。
- 魅力発信施設の駐車場は、積極的な緑化による修景を行うとともに、P&R 駐車場と連携して利用することとし、規模・連携手法を検討します。

※「魅力発信施設」とは、前回資料において「商業関係（農産品・特産品・土産物品などを取り扱う商業施設）」と「人の交流・発信等（交流機能/防災機能）」として示したものを。

駅整備と同時・一体的に地域の住みやすさの向上と風景づくりを進める

- 駅利用者利便施設や魅力発信施設は、地域住民の日常的な利用にも配慮した機能を導入し、地域の住みやすさの向上を図ります。
- リニア駅や駅周辺の整備により移転を余儀なくされる居住者の移転先の確保や、周辺住宅地・農地の無秩序な開発をコントロールする等、伊那谷らしい風景のモデルとなる住宅地を誘導・計画します。

効率的でコンパクトな交通広場と駅利便施設を計画する

《交通広場について》

- 駅の利便性を高めることを念頭に、適切な規模の交通広場を計画します。
- 交通広場には、バス乗降・滞留、タクシー乗降・滞留、一般車乗降・滞留スペースを確保します。
- 交通広場へのアクセスは、周辺道路の整備方針や交通量の見込みを踏まえ、適切に検討します。

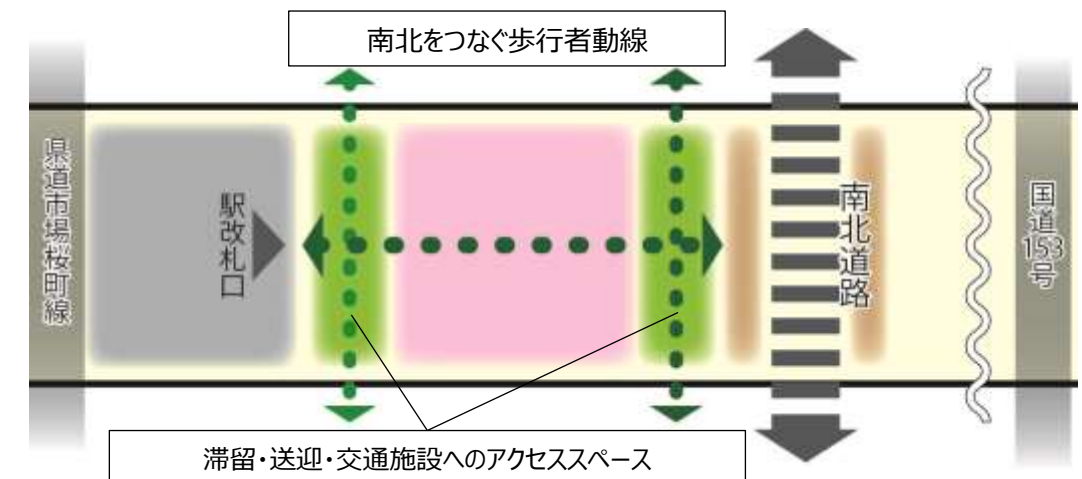
《駅利用者利便施設について》

- 駅利用者が待ち時間にくつろぎ、情報に接することのできる施設（機能）等を設置します。
- Ex) 飲食・休憩スペース、観光案内所、レンタカー貸出など
- 旅先で必要となる身の回り品や軽食などの購入を目的とした小売店舗を設置します。
- 駅利用者利便施設は、駅利用者だけでなく地域住民の活用も想定し、魅力発信施設との役割分担のもと、適切な規模を検討します。
- 各種施設整備に当たっては、ユニバーサルデザインの視点を踏まえます。

《リニア駅高架下の活用について》

- 効率的でコンパクトな駅・駅周辺とする視点に加え、駅利便施設の使いやすさ、送迎スペースの利用のしやすさなども踏まえ、南北道路と駅利用者利便施設として活用します。
- 高架下の活用可能な規模及び方法について、今後リニア駅の詳細な構造（高さ、柱間隔等）の検討と調整を図りながら、JR 東海はじめバス等交通事業者などとの協議を進めます。

《リニア駅高架下の活用のイメージ》



※「駅利用者利便施設」とは、前回資料において「観光関係（サービス機能）」（観光・案内センター、観光バス、タクシー用の待機スペース、レンタカー・カーシェアリング関係施設、利用者の利便性に配慮したサービス施設）として示したものを。

リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

《基本方針3》信州・伊那谷らしさの感じられるまちづくり、風景づくりを進める

信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間を形成する

- 県産材（スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ）、和紙、水引などの伝統工芸を活用し、来訪者の心に残る、日本・信州の文化を感じられる駅空間を形成します。

例：木造施設（長野県 HP）



例：水引工芸



例：ひさかた和紙



《地域らしさを備えた駅：日向市駅の例》

県産材の杉を活用したホーム上の屋根架構



こもれびステージの屋根架構



駅東西の庇にも杉を活用

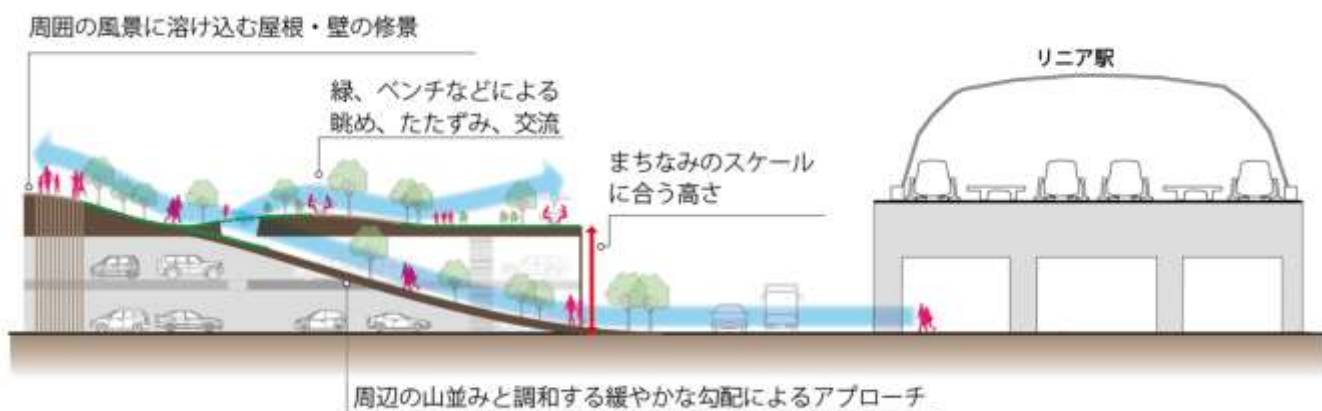


（日向市商工会議所パノフレットより）

山並みや里山の風景を見て感じられる「見晴らし広場」を形成する

- 「見晴らし広場」は、P&R 駐車場の屋上を活用し、屋上から見える風景、リニア駅に降り立った利用客のアクセス性などを踏まえ、適切な位置へ設置します。
- 駐車場屋上には広場空間、休憩空間、緑陰空間を設置し、駅利用者が伊那谷の風景を眺め体感するだけでなく、地域住民の遊び、語り、憩い、交流の場としても活用されるよう計画します。

《見晴らし広場のイメージ》



あかり区間を走行するリニア自体を眺望できる「眺望の丘」を形成する

- あかり区間があり、“走行中のリニア車両を見ることができる街”として、谷地形を活かした「眺望の丘」の設置を検討します。
- 「眺望の丘」は、リニア駅からの来訪者が歩いてアクセスできる距離を想定し、伊那谷らしい風景を体感してもらえるよう、飯田線乗換新駅設置とあわせて検討します。

《南アルプスの遠望》



周辺のまちづくりと連携し、伊那谷らしさを感じられる風景を形成する

- 主要な幹線道路（国道 153 号、県道市場桜町線、座光寺 SIC（仮称）への新設アクセス道路など）の沿道の魅力的な風景づくりに向け、関係者と協議のもと、地区計画、景観計画などの手法や基準の検討を進めます。
Ex) 建築物の高さ、屋外広告物の色彩・大きさ、壁面の色彩、屋上に設置される設備の修景など
- リニア駅周辺の住宅地においては、地域の歴史・文化を大切に、伊那谷らしい風景づくりの手法や基準について検討を進めます。
Ex) 建築物の高さや色彩、敷地面積、屋根・壁・塀等の素材、緑化など
- 舗装整備や緑化、水路の開渠化、河川修景を行うなど、沿道建物と連携した基盤整備の検討を進めます。

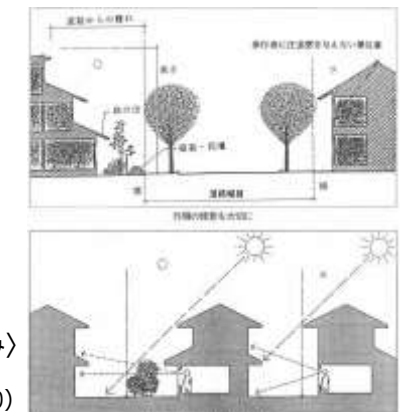
《景観に配慮した色彩の広告例》

（富山県屋外広告物ガイドより）



《小布施町の取り組み》

（小布施町 HP より）



環境に配慮した駅周辺整備とまちづくりを進める

- 環境に配慮した取組みを様々な視点から実施し、次世代のまちづくりを進めます。
 - ・自家用車から公共交通や自転車など低負荷型交通への利用転換の促進
 - ・大きな面積を占める P&R 駐車場の屋根・壁面の緑化や自然エネルギーの活用
 - ・県産材の積極的利用
 - ・原風景、地域の自然環境を維持・保全する風景づくり
 - ・最先端技術の積極的導入による環境負荷低減への取り組み など

《飯田市エコハウス》



リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

《基本方針4》「伊那谷ブランド」を強化し、発信する

6次産業、先端ビジネスの発掘・誘致・強化を進める

- リニアによって人・モノ・金融・情報などの交流活性化が促進される機会をとらえ、地域の特性を生かした産業・ビジネスの強化・発掘・誘致を進めます。
- リニアによる交流活性化を活かした、ものづくりの展開を図ります。
 - ・航空宇宙産業クラスターなど地域産業の強化
 - ・環境・エネルギー、健康・医療など新たな分野でのモデル事業構築
- リニアがもたらす農業ビジネス環境の変化を活かし、アグリビジネスの展開を図ります。
 - ・地域特有の農産物について、生産基盤の強化を図りつつ「ブランド化」を促進
 - ・農業や商業、工業、観光などが連携し、域産域消を組み合わせた「6次産業化」に向けた取組の促進
- 交通環境の変化を活かし、新たな施策展開に向けた基盤の確立を図ります。
 - ・リニアを活用した二地域居住に向けた取組の促進
 - ・観光、産業、生活など多分野での広域連携の促進

来訪者を惹きつける観光資源の発掘・強化を進める

- 各地域の実情を踏まえ、リニア時代を見据えた観光計画（長期的ビジョン）の策定を進めます。
 - ・海外からの誘客（インバウンド）についての検討
 - ・国際的な対応が可能な観光案内施設・サービスの検討
- 今ある観光資源の棚卸し、見直しを踏まえた観光資源の発掘と強化を進めます。
 - ・駅周辺の風景づくりを行いつつ、伊那谷の現状の風景を観光資源として活用（日本風景街道など）
 - ・広域連携（伊那谷の行政機関、民間事業者、観光協会の参画による検討会議の設立など）による観光プランや具体的な取り組みの提案
 - ・観光ルートの構築・提案、サインの統一
 - ・新たな観光資源の創出（グリーンツーリズム、アグリビジネス、気球やヘリコプターによる観光など）
 - ・歴史文化資源をテーマに、来訪者が地域の伝統や文化に触れることのできる仕組みを検討（ランプリング（※）ロードの形成など）

※ランプリング：ブラブラ歩き、そぞろ歩き



千畳敷カール(駒ヶ根観光協会 HP)



日本風景街道(日本風景街道協議会 HP)



高遠城址公園(伊那観光協会 HP)



天龍峡



下栗の里

〈南信州の観光資源〉



「伊那谷ブランド」を発信するシティプロモーションを進める

- 「6次産業・先端ビジネス」、「観光資源」、「まちづくり」、「行政と地域住民の連携」など、伊那谷の魅力を発信するシティプロモーションの取り組み強化を進めます。
- 自然や環境、地域での暮らしや歴史伝統等と共生した信州型ツーリズムの確立を目指すとともに、東京、名古屋、大阪など大都市圏に対して発信していきます。

多様な力を活かし検討を進める

- リニア駅周辺に新たに整備される駐車場、駅利用者利便施設、魅力発信施設においては、公設民営など、民間の活力を活かした施設のあり方を検討します。
- 地域の魅力発信、創出に向け、風景づくりの地域ルール等の検討・運用のための組織づくり・人材育成や、来訪者へ案内を行う担い手育成などを進めます。

リニア駅周辺整備と連携・補完する都市の魅力づくりを進める

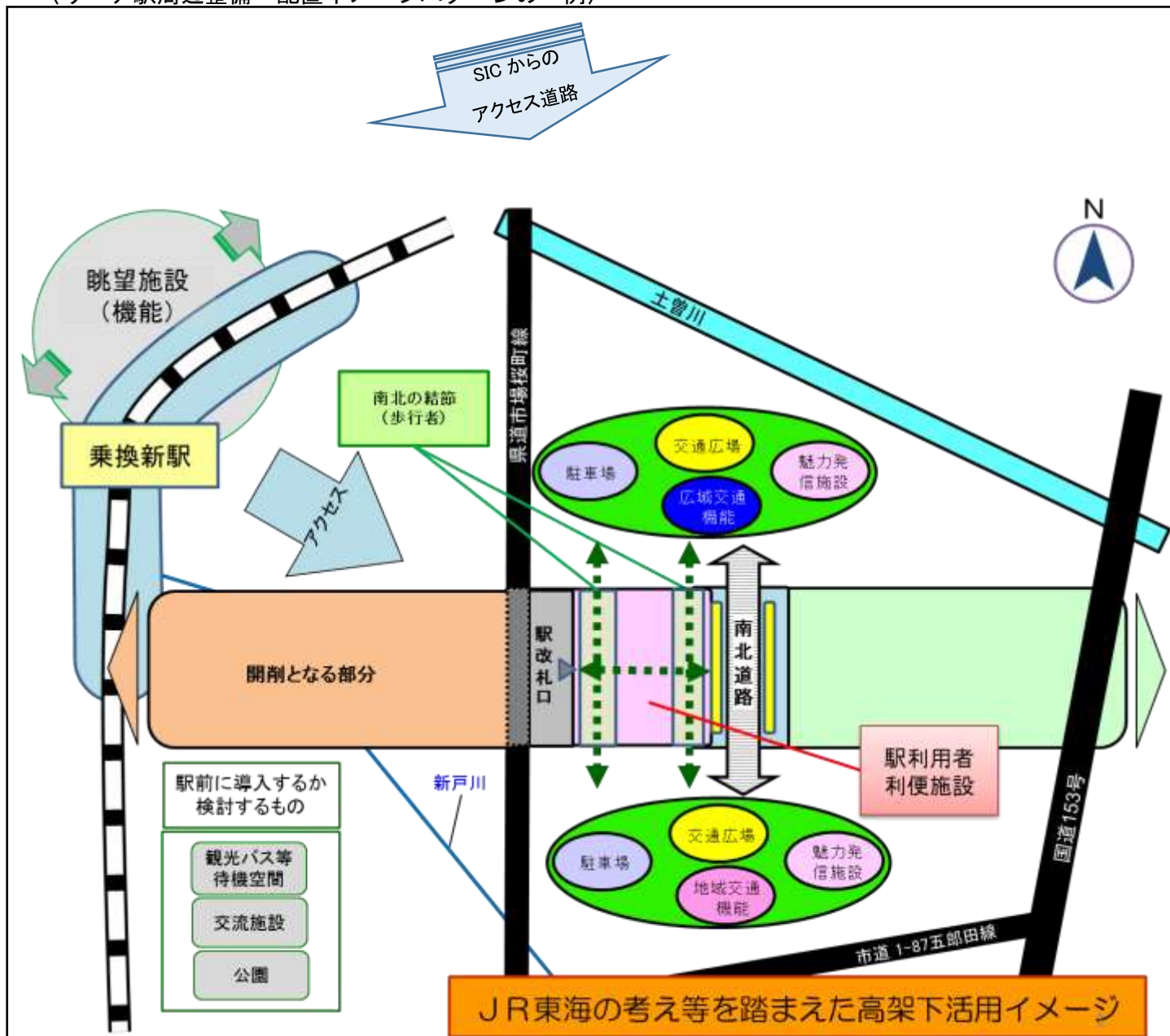
- 「強力なネットワーク」による連携・補完を進めるため、各市町村、各拠点が、長期計画などの中において、機能強化を検討し、実施していきます。
- MICE（※）、宿泊・滞在、文化・交流等の都市活動を支える機能の強化のために、既存ストックを有効に活用し、地域の活性化に結び付けていきます。

（※）企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。
- 飯田市においては、中心市街地活性化とリニア駅整備を両輪で進めていきます。

リニア駅周辺整備基本構想の骨子（案）

5. リニア駅周辺整備のイメージ

〈リニア駅周辺整備 配置イメージパターンの一例〉



※今後検討されるアクセス道路関連の整備やリニア駅の構造に関する情報、第3回検討会議での議論等を踏まえ、さらに整理を行います。